

# スキー初心者への安全教育に関する研究

上江洲 美樹 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 柴田 俊和

キーワード：スキー，安全教育，初心者指導

## 1. 諸言

2008年3月28日に小学校学習指導要領が公示され，体験活動の充実が示された．自然体験活動プログラムの開発を行い，学校現場へ普及することが喫緊の課題となっている．

筆者は現在，教員を目指しており，スキーという自然豊かな環境で，生涯に渡って楽しむことのできるスポーツを，子どもたちに1度でも体験してほしいと願っている．

日本のスキー人口は，1980年代後半から1990年代前半，に1860万人を超えるスキーブームが起こった．しかし今現在，そのスキー人口は約3分の1にまで減少し，それに伴い，学校でのスキー実習実施校も年々減少していった．一昔前までは，全国各地多数の小中学校がスキー実習を実施していたのだが，今現在，教育現場では若い教員層にスキー未経験者が多く，十分な指導ができていない状況である．

## 2. 研究方法

2013年現在，スキー実習を行っている滋賀県内の大津市を中心とする小学校6校に，しおりなどの資料入手及び安全教育の実施についての聞き取り調査を行った．

## 3. 結果・考察

安全教育の実施についての聞き取り調査を行ったところ，ほとんどの学校は，事前オリエンテーションは1回程であった．内容としては，

①スキー用具の借り方，返し方

②スキーブーツ，スキー板の脱着方法の2点であり，安全教育についての指導は行われていないのが現状であった．その理由として，小学校現場には若くてスキー未経験の教員が多く，雪上での安全教育については，現地のインストラクターやボランティアの方々に全て任せているとのことであった．少ない時間，スキー未経験者の教員でも，スキーの特性，安全配慮

のできる安全教育のマニュアルが存在しないのが現状である．

このことから課外活動や体育の授業を行うに当たって，1番重要とされている安全面の配慮を，スキー実習においては教員自身が把握できていないので，スキー実習を他人まかせにせざるをえない状況であることが分かる．

## 4. 改善提案

スキーの基本的技術については，雪上の指導者に任せるとし，実習を行う前に理解しておくべき

①スキーの特性

②スキー用具

③かつぎ方

④スキー板の脱着方法

⑤ストックの持ち方

⑥スキー場でのルール

⑦リフトの乗り方

を中心として，作成していく．また，スキー実習事前指導の授業時数を最低2時間は設けることとする．特に，「①スキーの特性」及び「⑥スキー場でのルール」を徹底して指導をしなければならないと考える．

## 5. まとめ

事前指導を行っている学校数が少なく，せいぜい1時間程度であるのが現状であった．しかし，スキー実習をするにあたって，準備物，スキー用具の使い方，スキー場内でのルール，リフトの乗り方を事前指導で行うと，1時間では指導しきれない量であることがわかった．事故を未然に防ぎ，安全にスキー実習を行うためには最低でも2時間の事前指導が必要であると感じた．

## 引用・参考文献

野沢温泉スキークラブ (2007) やってみよう！スキー，ベースボール・マガジン社 pp.22・31.